

平成 22 年度 倉吉総合産業高等学校 第三者評価 評価書

【講評】

学校長をはじめとする管理職の高い教育目標が明確にあり、教職員が一体となってそれを実現しているという志が共有されている。そして、その高い目標に向けて様々なアクションがとられていることが確認できた。校長は、職員会議の中で教職員と直接対話することによってその考えとビジョンの浸透を図っており、教職員は対話の中からその共有を図っているといえる。また、教員間のコミュニケーションも確実に行われ情報共有が図られるとともに、教育実践の中で若手教員が育てられていることがわかった。その結果、教職員及び生徒の明るい雰囲気と信頼関係が学校全体に感じられた。

当該高校の重点目標の一つは、「地域・地域に愛され、信頼される学校づくり」であり、これを具体的に実践している。地元企業との連携・協力、保有技術の地域での活用、校外でのあいさつ、などがその例である。これによって地域と一体となった複合的学校教育を行うことができているし、地域が自慢できる学校となりつつあると見ることができた。

以下は、委員会として高く評価し、今後も継続・発展させて欲しい点である。

- ① 5つの学科の特徴を活かし、活気ある学校運営がなされている。例えば、生徒によるショップ「くらそうや」は、生きたビジネスを体験するという、教室内の授業では得ることのできない学習経験であり、学校全体の活気を生み出している。
- ② 当校の特徴のひとつと言える「あいさつ運動」はきわめて重要で評価に値する。評価委員は複数回にわたって倉吉総合産業高校を訪問したが、いつも生徒の側から大きな声で挨拶を受けた。
- ③ 生徒の遅刻を減らす取り組みも特徴的である。クラス毎の遅刻数および遅刻率を毎月求めて掲示することによって、生徒の認識と自覚を促し、理由によらず遅刻しないことを目指ように指導している。同様に、問題への対応も「迅速」で「他に波及させない」など、学校全体で適切に処理されている。
- ④ 総合産業高校としての特殊な施設や設備が数多く整備、活用され、授業は教員の工夫や努力によって分かりやすいものとなっており、生徒は楽しく受講して授業内容を理解している様であった。
- ⑤ 部活動や課題研究は全国レベルの生徒の活躍が数多くあり、全体的に活性化が図られているといえる。

一方、今後更なる改善を期待したい点を記す。

- ① 学校評価アンケートは役員だけでなく、一般のPTAにもアンケートをとり、PTAの意向を知る努力を望む。
- ② 教員は他教科の授業も見て、自分の授業では見えない生徒の様子を知るとともに、自分の授業に生かせる指導法を得る研修を望む。
- ③ 朝読書及び授業への図書館の積極的な活用は今後の課題である。

当評価委員会は倉吉総合産業高校の教育体制とその活動を高く評価するが、更なるレベルアップは、課題研究や部活動の指導者の育成強化によって一層推進されるものと考えている。現在行われているインターシップ、くらそうや、中学校の生徒や教員の体験入学等による地域社会との連携や、学校独自の「ものづくりの技術や技能・販売・デザイン・資格取得」等を行いつつ、更に固有の活動を実践することによって一層の展開を期待したい。